Vo.7

和而不同

二〇二〇年も残りあと三か月。徐々に自粛ムードが解け始め、以前の日常を望む空気が不安を覆い世間に漂っている。コロナ問題に関わらず、あらゆる場面で何を考え、どのようにふるまうか、これは個々人の価値観の豊かさによって決まる▼以前、今年夏の甲子園中止を受け、関係者らの計らいで全国の高校球児へプレゼントされた「甲子園の土」を入れた記念キーホルダー、これがネットに複数出品されたとの記事が出た▼誰が出品したかは定かではないが、その方曰く『自分にとってはただの土だから』。せっかくの思いを受け取って貰えなかった関係者の落胆ぶりは想像に難くない▼一方で、出品者自身にとっての甲子園という価値観から眺めれば、その記念品は本当に『ただの土』に映ったのであろう。本質はここだ▼培ってきた経験が生み出す価値観はあくまで私専用。隣の人には隣の人のそれがある。だから、私が見ている景色が全てではないことは一見理解できる。しかし、実態はその逆だ。他の受容はそう簡単にはいかない▼どんな料理も一口頂いて初めてその味を実感できる。自身の向こう側へ思いを馳せ、感受しようとする意識が価値観を充実させ、より豊かな考え方やふるまいへと繋がっていくはずだ〔徳〕

お参りの途中、道でお母さんと歩いていた子どもがこちらを指さして一言。「あ！この前の王子様や！」
彼にとっては、僧侶の法衣がどこかで見た王子様の衣装と重なり、同じ姿に見えたのかもしれません（若院）